

まゆだま

2012. 2. 1. 発行
No. 352



連絡先：高田（榎原小学校）
東京歴教協 八王子支部

～ 冷たい雨が降りしきる3学期最初の土曜日。今年度の最後の例会が台町市民センターで行われました。悪天候にも関わらず熱心に駆け付けて下さった参加者の皆様、どうも有り難うございました。また4月、新年度の例会でお待ちしております。～

1月の例会報告：6年生の社会科授業

今回は、江戸時代の中でも特に宿場町を題材とし、地域教材を使った授業実践を報告する例会となりました。報告者は、学校のある地域のことを知らず、社会科の歴史を初めて受け持つ2年目と、地域を少し学んでいるもののなかなか教材化出来ずに悩んでいた中堅の先生でした。二つの報告は私立小学校の実践ということで、教師だけでなく、子ども達も地域に目が向くことはほとんどない(T_T)、という状況でした。

1. とはいどういうものの・・・教師の事前学習



いくら知らないと言っても、事前に教師が学ばなくては、地域の教材化などできるはずがありません。しかし、日常に忙殺されてなかなか教材研究が進みませんでした。そこで、見るに見かねた歴教協の先輩が手を差し伸べて下さいました。そうですね！こういう教師のつながり(教育)が次の世代の教師を育てているのです。直前に学校で開かれた地域教材の研究会。こうして初めて「拝島(はいじま)」の地の特徴や成り立ちを知ることができました。授業をするにあたり、まずは教材研究からスタートです。

授業者はもちろん、地域学習をする3年生の先生や、新任の先生も参加して、勉強会が始まりました。本当は自分達の学区を自分達で歩き回らないといけないのですが、情けないことですが、今の状態はここからのスタートでした。今回講師をして下さった歴教協八王子支部の栗原先生は、昭島市史や八王子宿との比較などの資料をお持ち下さり、熱心に御指導いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

2. 授業実践報告

報告1：内藤 小夜子さん (啓明学園初等学校勤務)

教員生活2年目となり、今年度は6年生の担任をさせていただいています。6年を担任すると決まったとき、昨年度初めてもった学年をそのまま持ち上がって担任できる嬉しさを感じたと同時に、6年ということでも社会科で「歴史」の授業を教えるということに対する大きい不安がありました。

そんな思いでスタートした6年「歴史」の授業。私自身も学ぶことだらけで授業を進める中、「歴史」というのは、教科書の中だけの出来事ではなく、過去には本当にそれらの事象が起きていたこと、そしてそのひとつひとつが現在につながっているということを強く感じ、子どもたちにも「歴史」を身近な物として考えてもらえるような授業をしていきたいと思うようになりました。

しかし、自分自身をふりかえると毎日仕事に追われて、大切にしたいと思っていたことを実践できていないのが現状です。見通しをもった授業ができておらず、なかなか授業も進んでいません。今日報告させていただく授業内容も途中経過という状態で申し訳ありませんが、今後に向けてのアドバイスを少しでもいただけたらと思い発表させていただきます。



ということで始まった一つ目の報告。やはりそこには思うように教材研究が出来ずに授業をしなければならない先生の苦労と苦悩がにじみ出ていました。歴史の授業も初めて、学区の地域学習も初めてということで、まさに未体験ゾーンでの取り組みとなりました。

授業では資料を見る前に実際に町を歩きました。学校のある地域がかつての宿場町だったという名残は無いのですが、それでも子ども達は当時を思い描きながら歩き、気付いたことを出し合いました。↓以下↓

- ・ ほぼ直線、道がまっすぐ、一直線
- ・ 1けん1けんの間がせまい・わき水がある
- ・ 同じ名前の人がある
- ・ 細いみちがある
- ・ 真ん中に拝島分水がある
- ・ 拝島分水にそっている
- ・ 大きさがそれぞれちがう
- ・ 5人組でまとまっている
- ・ 家と家の幅が同じところが多い
- ・ 家がたてに長い、たてにのびている
- ・ ほとんどの人の面積が同じ
- ・ たくさん1人が家をもっている
- ・ 形が縦長に細い家が多い
- ・ 臼井さん家の土地が広い、今でも家がある
- ・ お寺や神社が同じ間隔で広がっている
- ・ 龍津寺の家(檀家という)が多い
- ・ 家と家の間にある小道が多い
- ・ 街道の町の広さがずっと同じ
- ・ 家の間取りがほぼ一緒
- ・ 拝島宿、中宿、上宿、下宿、坂上、坂下がある
- ・ 橋があったが、現在川は流れていない
- ・ 同じ名字の家が多い
- ・ 小道が多い
- ・ 神社や寺が多く、大通りにはない
- ・ 一軒あたりの土地が平等ではない
- ・ 今も前と変わってないところがあって、すごいと思った

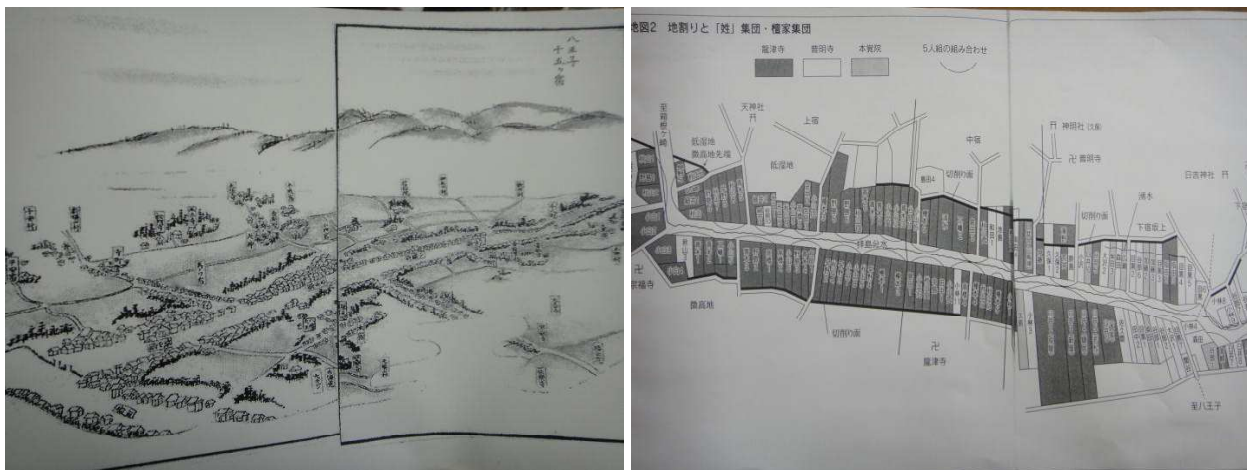
こうして4時間計画で授業を進めてみましたが、この日の例会までに授業が終わりませんでした。でもこの例会で、「授業の準備」、「授業の中身」、「授業の展開」をも検討して、今後に活かすという学び合いになったのです。最後に報告者の内藤先生が今回の取り組みについて、次のようにふりかえりをしました。

日々子どもたちが生活している学校周辺のこの地域にも深い歴史があり、今学習している江戸時代にも拝島宿として栄えていたということを知り、そこから「歴史」について考えてほしいと思いがかりました。まだ授業が途中の段階ですが、今後は、どうしてこのような宿場町がつけられるようになったのか、そして宿場とは何のためにあったのか、というところに視点をあてて授業を展開していきたいと思っています。

「歴史」とは、今の自分とつながっているということ、そしてまた今の自分がこれからの「未来」へつながっていくということ子どもたちが学びの中で感じ、自分の考えを持ちながら生きていくことができるような授業を目指していきたいと思います。そのためにも、自分自身の学びを深めていきたいと、今改めて感じています。

報告2：小杉 雅彦さん(啓明学園初等学校勤務)

拝島の宿場町の資料を用意して、2時間で授業を終えました。「拝島の地形図・拝島分水の変遷図・地元の地割り図・村別農作物取れ高の比較表・八王子千人同心日光詣行程路線図」と山盛りの資料を詰め込んで説明したおかげで、子ども達が歩いて気付いたことと、資料との関係がはっきりしませんでした。子どもの思考の深まりや、過去への寄り添いの様子をはっきりと残せなかったことが課題として残りました。



【八王子宿の風景図】 資料はほどほどに 【拝島宿の地割り図】

★2012年度用 歴教協八王子支部アンケートのお願い★

今回のまゆだまにはアンケート用紙も同封してあります。2012年度の支部例会の活動について、皆様現場の方々の御希望や御意見をお寄せいただき、参考にさせていただきます。まだ例会で発表されていない方やぜひ報告してみたい方も、参加希望の旨をどしどし事務局までお寄せ下さい。詳しくはWEBで・・・(あ、ないです！用紙をお読み下さい。御不明な点は事務局まで御連絡下さい。檜原小学校：高田宛)

1月例会に参加した皆さんの感想 ~順不同~

- 6年生の歴史学習で、地域教材を取り扱うのはすごいなと思いました。私立であり、帰国子女が多い学校での実践は難しそうですが、先生方の熱意が資料方も伝わってきました。私の勤務している学校も地域の歴史が古く、調べてみる価値のあるものが多くあります。自分も6年の担任として、ぜひ今日の学びを、自分の実践にも活かしていこうと思います。有り難うございます。
- 途中から参加しました。歴史というと(特に江戸時代などは)自分の生活からかけ離れたイメージが子どもにはあると思いますが、地元の学習、フィールドワークをすると、ぐっと近くなる、興味のある身近なものになると思います。私の学区にも寺や屋敷跡など歴史的な教材がありますが、なかなかそれを授業で生かし切れていませんでした。あらためてそのことに気付かされました。今日は、とても貴重な学びを有り難うございました。
- 拝島という場所のことをあらためて認識しました。史料があると、現実感がわくと思います。また、この地域で昔からあった絹産業の盛衰も小学生の社会科教材として取り上げることができるかと思っています。(高校教員)
- 地域教材は歴史の宝庫であることを、今回の報告でも痛感しました。その教材をどのように展開するかは、ひとり一人の教師の実践力にかかっています。私は、今日の報告を、「自分ならどのように教えるかなあ」と考えながら聞かせていただきました。大変勉強になりました。有り難うございました。
- 教師の思いがその授業を決定づけるという意味で、たくさんの資料を用意してうまく提示していることが伝わってきました。この授業を終えて子ども達がどのように思ったのか、意識が変わったのかということもぜひ報告に加えてもらおうと良かったですね。参加者が知りたいのはそういうところですから。
- 例会報告お疲れ様でした。宿場町の地図や千人同心の足跡をたどるという資料も用意できれば、子ども達のイメージもさらに高まったことでしょう。
- 学区域とかけ離れたところから通ってくる子ども達に、地域を教えることは簡単ではない。しかし、手をこまねいているだけでは、学習意欲を引き出すことはできない。その意味で苦労はあるがこのような取り組みを早い時期から挑戦する先生の姿に、これからの教育の可能性を感じることができた。
- 歴教協が大切にしてきた視点として「地域に根ざした一」をいつも頭に置いていながら、その授業実践ができていないことを、後ろめたく思っていた。今回、学校のある地域、拝島を舞台に江戸時代、「宿場町」の学習ができたということは、私立学校の社会科の実践として大変意義があることであると思う。授業のねらいを明確にし、地域を子どもたちと歩いて、そこで生まれた気付きや問題意識を学習課題として授業を構成していった展開も大変良かった。子どもたちも歴史を身近なモノと感じ、歴史学習への関心も深まったことだろう。長年の願いだった「地域教材を生かしたカリキュラム作り」への第一歩が踏み出せたのではないだろうか。今後、各学校でも、こうした研究を組織的に、継続的に進めていくことが大切だと思う。